

千日の記録 「千日道路」ができるまでの 苦難の数々

昭和38年1月、名阪国道として亀山から天理間をその年の4月から千日間で開通させることが決定。延長73.2km、インターチェンジ29箇所、橋35箇所、トンネル2箇所、全体事業費320億円の大事業である。

名阪国道施工工程表 (第一期工事)

工程	38	39	40	41
調査	●			
設計	●			
用地買収	●	●		
起工		●	●	●
開通				●

名阪国道工事施工計画表 (中部地建管内分第1期工事)

工程	38	39	40	41
調査	●			
設計	●			
用地買収	●	●		
起工		●	●	●
開通				●

あと 1000日

昭和38年4月、第一歩として現地調査、地質調査などを行い、5月に路線決定。さらに測量も進め、道路の中心線に20mごとに赤い杭が打たれていく。



あと 790日

昭和38年11月、地域生活者の方々の用地買収が始まる。買収面積220ヘクタール、用地関係者約3,000人との、昼夜の別ない用地買収の努力が続けられる。明けて昭和39年3月、各地で用地の調印が始まる。



あと 550日

昭和39年6月、起工。全区間で一斉に工事開始。山間部の固い地盤の掘削や、複雑な加太断層地帯を通るトンネル工事、千日工事の成否を大きく左右するアーチ橋工事など、たくさんの難工事が次々と待っていた。



さまざまな難工事に立ち向かうための討議が連日に行われ、難工事を克服するための、工事事務所と現場とが一丸となつての不断努力は続けられた。



あと 250日

昭和40年5月、仕上げ段階に入るこの頃、梅雨期の異常な雨に見舞われ、盛土の法面が崩れるなどの被害が続出し、工程に乱れが見られるようになった。月1回開かれる合同会議での関係者の顔は暗い。



あと 180日

昭和40年7月、梅雨が明けて現場にも活気がみなぎる。必死の追い込みである。道路の基盤面やアスファルトの工事、橋げたの架設などが急ピッチで進む。



あと 50日

昭和40年11月、南在家地区で春先の長雨の影響で、付近の山一帯が地すべりを起こし、舗装した路面が大きく崩壊。だが開通を目前にし、土留めの鋼管杭を打ったり、新たに擁壁を作るなど、必死の地すべり対策が講じられた。



あと 20日

昭和40年11月下旬、ガードレールの取り付けやセンターラインの線引きなどの仕上げ作業が急テンポで進む。開通の日の前日まで道路の清掃が行われ、最後に、ほうきで綺麗に掃き清められた。



あと 10日

昭和40年12月15日午後、工事は10日前倒しで予定通り竣工。野を、山を伸びる新しい千日道路が、美しい夕日に誇らしげに照らされている。



開通の日

昭和40年12月16日、待望の開通の日を迎える。沿道では、新しい道路に期待を寄せる地域のたくさんの人々が歓迎の旗を振っている。

